

2020年を見据えた館運営

宮崎市民プラザ
企画総務課 主事 中田 美咲

宮崎市民プラザ企画総務課
主査 中山 順子 主任主事 後藤 鉄平 主事 大重 典子

【要 約】

宮崎市民プラザは、従来の芸術文化施設の役割に加えて、『交流の場』という特色をもつ複合型文化施設である。2020年東京五輪に向けて、宮崎市における文化と交流の中心拠点を目指すために、先進地の取り組みを様々な視点から検証し、施設運営や事業展開へと活かしていく。

第1章 研究の背景と手法

宮崎市民プラザは「集い・学び・交流する」をコンセプトに、芸術文化施設としての機能を持ち、同時に地域コミュニティのハブとしての役割を果たしてきた。また、メインホールが『オルブライトホール』の名前を冠しているように、宮崎市における国際交流のシンボルとしての位置付けのある施設として市民に親しまれている。

さて、近年国内外で最大の関心事は、文化面のみならず、国際交流、障害者等の社会参加といった点で東京オリンピック・パラリンピックがあげられる。2020年東京大会に向け、文化庁は3つの重点施策（①文化プログラムの育成②文化プログラムに向けた環境整備③文化プログラムに向けた発信強化）を掲げ、地域の劇場を文化プログラムの拠点として、芸術・伝統文化団体や自治体による取組の支援、施設内の多言語化への対応、Wi-Fiの整備等を取組支援していくとしており、大会の成功に向け動き始めている。

当館の設置目的と方向性を同じくする五輪開催を見据え、多数の実績を誇る世田谷パブリックシアターから、国際都市横浜市へと伸びる東急田園都市線上にある文化施設を調査対象とし、現地での視察と管理者への聞き取りを実施し、これからのロードマップをより具体的に描くために多角的な調査を行い、今後の館運営に活かしていく。

第2章 視察先の選定について

施設名	横浜能楽堂	横浜みなとみらいホール	KAAT 神奈川芸術劇場	世田谷パブリックシアター
施設概要	  【本舞台】 客席：486 席 【第二舞台】 客席：60 席 他、研修室（4 室）有	  【大ホール】 客席：20, 20 席 【小ホール】 客席：440 席 他、リハーサル室、レセプションルーム、練習室有	  【ホール】 客席：1, 200 席 【大スタジオ】 客席：220 席 他、中・小 A・小 B スタジオ、アトリエ有	  【主劇場】 客席：700 席 【小劇場】 客席：248 席
施設について	能楽専門の公立劇場で、「敷居の低い能楽堂」を目指して、解説付きの低価格公演・講座等を開催している。	「海に見えるコンサートホール」として親しまれている音楽専用ホールで、市中心部にある横浜を代表する施設である。	モノ・人・まち、「3つのつくる」をテーマとする創造型劇場で、NHK 横浜放送会館を内包している。	三軒茶屋駅前キャロットタワー内に「創造発信型劇場」として設立され、公演事業と普及啓発事業を両輪に幅広い展開を行っている。
選定理由	【理由①】日本の芸能を軸にして、アジアとの文化的な国際交流事業を多数企画している。 【理由②】古典芸能に馴染みのない幅広い層に親しんでもらう企画が豊富である。	【理由①】国際都市横浜をアピールする事業を数多く展開している。 【理由②】子どもたちに音楽を体験する機会を提供するアウトリーチを実施している。	【理由】外国人登録の住民が 11.1% という立地条件にあり、アジア国際芸術見本市のメイン会場としても有名である。	【理由①】ワークショップ形式による教育普及事業に長期間取り組んでいる。 【理由②】国籍やカンパニーの壁を超えた作品制作の実績がある。

第3章 館内設備について

近年増加傾向にある外国人旅行者は日本滞在中、観光情報の収集やナビゲーション、SNS利用のためのインターネット環境（公衆無線LAN）を必要としている。また、道案内のための多言語案内表示、通訳システムもニーズが高まっていくことが予想される。来館者に優しい施設を目指すことは、外国人だけではなく、障がい者や高齢者にとっても訪れやすく『利用しやすい施設づくり』をする点において欠かすことのできない要素である。このことについて、先進館での視察と聞き取りを行った。

表1 各施設ごとの設備設置状況

	横浜能楽堂	みなとみらいホール	KAAT	世田谷
公衆無線LANの有無	なし	なし。	共有スペースのみ	楽屋・ロビー・稽古場のみ
無線LAN導入の際に想定されるトラブル、防止策の有無	なし	クラシックホールのため、舞台へ音漏れの心配がある。	事業者に委ねていて、館としての個別対応はしない。	使用回線と使用者をエリアごとに制限する。
無線LAN導入の際予定しているサービス・メーカー	なし	なし	ソフトバンク Wi-Fi スポット	【プロバイダ】ドリームトレインインターネット 【契約プラン】フレッツADSL 【障害担当】ミツイワ株式会社
施設内多言語表示の有無・箇所 ①館内 ②ホームページ ③施設案内、広告	①ピクトグラム（計画中） ②英語・中国語・韓国語対応 ③英語表記 ※開館20周年リニューアル準備有	①フロア案内板・E.V内・避難路案内板 ②英語表記（一部） ③施設案内英語併記	①英語表記。 ②基本情報のみ英語。 ③なし	①ピクトグラム及び英語表記 ②主催事業、劇場概要、図面等は英語表記 ① なし 
同時通訳システムの有無	ワイヤレスでの音響送信で可能	なし	同時通訳システム（スポット契約）	ワイヤレスの音響を利用して可能
外国語対応できる職員の有無	常時ではないが在籍。但し、日常会話程度。	常時ではないが在籍。	常時ではないが在籍。	日常会話以上の対応ができる職員が2名
タブレット端末活用実践例等の有無	聴覚障害者用眼鏡とiPadを導入予定。（翻訳・ガイド・道案内等）	なし	翻訳対応や失聴聴者向け筆談表示の導入検討中。	なし

【考察】

横浜能楽堂では、聴覚障がい者対応のためのiPadやウェアラブルメガネ（※1）導入計画について、話を伺うことが出来た。こうした先進機器は、低コストで高い効果を上げることができるもので、我々も積極的に情報収集していきたいと感じた。館内表示については、多言語表示よりピクトグラム（※2）での表示が多い印象であった。ピクトグラムは、言語や年齢を問わず一目で分かる表示であり、公共劇場の持つ『ユニバーサルデザイン』という方向性と親和性が高いと思われる。

※1 レンズの下部分に字幕が表示される特殊眼鏡

※2 表現対象である事物や情報から視覚イメージを抽象化し、図記号で表したもの。

第4章 事業について

東京大会に向けた多文化共生文化のまちづくりは、互いの国籍・民俗・文化の違いを認識、活かすと同時に日本の伝統文化への興味関心を高めていく必要がある。また、パラリンピックに象徴される障がい者の社会参加について、媒介となる事業展開も命題と言える。先進館の事業について、視察と聞き取りによる検証を行った。

■横浜能楽堂

Q 1：日本の伝統文化をテーマにした公演やワークショップはありますか。

A 1：すべての事業が古典芸能に関わるもの（能楽、日舞等）です。

Q 2：（Q1について）運営面で心がけていることはありますか。

A 2：現役で一流の能楽師による指導を行っています。

Q 3：在留外国人を対象にした公演、ワークショップの企画・運営例を教えてください。

A 3：セリフを英語に変えたりせず、本来の形をみてもらうようにしています。また、英文のチラシやパンフレットを準備しています。

Q 4：（Q3について）運営面で心がけていることはありますか。

A 4：特にありません。

Q 5：在留外国人が参加しやすい仕組み作りや工夫点はありますか。

A 5：あらすじの書いたものを用意したり、施設案内チラシ・ホームページでの施設・貸館・能・狂言についての案内を出しています。他ツイッターによる簡単なつぶやきもしています。

Q 6：障がい者を対象にした公演、ワークショップはありますか。

A 6：16年目になる『バリアフリー能』を開催しています。介助者は1名まで無料、聴覚障がい者には字幕や詳しいプログラムなど目で見える情報を提供、視覚障がい者は点字パンフレット、解説の手話通訳などサポート体制が充実しています。

Q 7：（Q6について）運営面で心がけていることはありますか。

A 7：対象者へ改善点やどんなサービスがあったらよいかなどの聞き取りを公演前後に行っています。障がいに応じた職員の対応研修を行っています。

【考察】 能楽堂の特性を活かし、様々な国との交流文化・共同制作事業を実施していた。また、障がい者を対象とした事業や講座などを実施しており、具体的なノウハウの蓄積を知ることが出来た。

■横浜みなとみらいホール

Q 1：日本の伝統文化をテーマにした公演やワークショップはありますか。

A 1：歌劇「竹取物語」を共同制作、姉妹都市ハノイで上演しました。市営のショッピングモールでの琴の演奏会（アウトリーチ）も開催しました。

Q 2：（Q1について）運営面で心がけていることはありますか。

A 2：運営面というよりも企画制作段階で検討しています。

Q 3：在留外国人を対象にした公演、ワークショップの企画・運営例を教えてください。

A 3：子ども達に歌や踊りなどのパフォーマンスを指導するワークショップに、外国人参加枠を設け40人が参加しました。

Q 4 : (Q 3 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 4 : 特にありません。

Q 5 : 在留外国人が参加しやすい仕組み作りや工夫点がありますか。

A 5 : 英語表記のチラシを館内で配布しています。

Q 6 : 障がい者を対象にした公演、ワークショップはありますか。

A 6 : 特別支援学校のオルガンワークショップや盲学校への特別支援アウトリーチを行っています。

Q 7 : (Q 6 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 7 : 障がい者を特別とせず、すべての公演で障がい者の鑑賞を可能とし、職員スタッフも対応を常に心がけています。

【考察】多様な音楽ジャンルを扱い、幅広い音楽層を想定した事業やアウトリーチを実施しているのが印象的であった。また、広報では、ツイッターやWEB等も使用しており、事業展開と同様幅の広さを感じた。

■K A A T 神奈川芸術劇場

Q 1 : 日本の伝統文化をテーマにした公演やワークショップはありますか。

A 1 : 語りと三味線の伴奏だけで役柄を演じ分ける「素浄瑠璃(すじょうり)」という義太夫公演や、若手歌舞伎俳優たちによる公演SUGATAを実施しました。

Q 2 : (Q 1 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 2 : 特にありません。

Q 3 : 在留外国人を対象にした公演、ワークショップの企画・運営例を教えてください。

A 3 : 特に実施していません。

Q 4 : (Q 3 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 4 : 特にありません。

Q 5 : 在留外国人が参加しやすい仕組み作りや工夫点がありますか。

A 5 : 特にありません。

Q 6 : 障がい者を対象にした公演、ワークショップはありますか。

A 6 : 身体・知的障がいのある方の動きの特性を活かしたダンスの創作や、健常者と一緒に踊るダンスワークショップを開催しました。また、障がいのある人々のアート活動に取り組むための「環境」について先進国英国のゲストを招き、シンポジウムを開催しました。

Q 7 : (Q 6 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 7 : 特にありません。

【考察】古典芸能への親しみを持ってもらう為の事前講座や障がいのある児童向けダンスワークショップを開催するなど、積極的に実施していた。

■世田谷パブリックシアター

Q 1 : 日本の伝統文化をテーマにした公演やワークショップはありますか。

A 1 : 演劇を基本にしたワークショップを学校からの提案や身の回りのことをアレンジして実施しています。小学校6年生を対象、狂言鑑賞教室を40年近く実施しています。

Q 2 : (Q 1 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 2 : その次にまた繋がるようなものを企画しています。

Q 3 : 在留外国人を対象にした公演、ワークショップの企画・運営例を教えてください。

A 3 : 世田谷在住の外国人の出身国料理を作って食べながら、話を聞くワークショップ「世田谷で暮らす」を実施しました。

Q 4 : (Q 3 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 4 : 運営全体の過程や参加者の声、姿を記録化し、アーカイブ化しています。

Q 5 : 在留外国人が参加しやすい仕組み作りや工夫点がありますか。

A 5 : 該当国大使館などと連携し広報に努めています。フランスやベルギーのダンスカンパニーを招聘し、一般とプロ向けのワークショップを実施しています。

Q 6 : 障がい者を対象にした公演、ワークショップはありますか。

A 6 : 介護をテーマにした演劇ワークショップ「地域の物語」を制作しました。作品をつくるプロセスを通じて、思いを共有したり、発表を通して人々が出会ったりすることを目指しています。

Q 7 : (Q 6 について) 運営面で心がけていることはありますか。

A 7 : 在留外国人の場合と同じように、公演やワークショップの内容によってアプローチしています。

【考察】年間事業数54本、実施回数508回と多くのワークショップを開催しているだけあって、どうテーマを設ければ参加者は楽しめるのか、そして次のワークショップへと繋げていくためにはどうしたらよいかを念頭に入れて企画・制作していた。また、過程や参加者の『こえ』をアーカイブ化することで、取り組みを記録・検証し、そこから連続性を作っていくという工夫は特に注目すべき手法だと感じた。

第5章 総論

今回の調査では、我々公共文化施設が公的資金である税金を原資として設置運営されており、すべての市民、社会全体や地域社会を想定してその力を発揮しなければならないという使命があるのだということを、改めて感じさせられた。

例えば、ピクトグラムの導入は、五輪を象徴するハード面の『ユニバーサルデザイン』(※3)であり、事業やワークショップにおける様々な工夫はソフト面での『ユニバーサルデザイン』というべきものであった。

オリンピックレガシー(※4)という概念がある。「国民運動」として大きな展開を見せる2020年東京五輪へ向け、外国人や障がい者、高齢者といった社会的に孤立しやすい層に対し、寄り添うような『ユニバーサル・デザインの運営』を行うことは、五輪後の社会において、公共施設がなくてはならない重要なレガシー(遺産)となっていく道筋の「はじめの一步」になると言える。我々指定管理者は今後も創意工夫に努め、明確な運営デザインを描いて、社会に貢献していかななくてはならない。

※3 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計(デザイン)

※4 「長期にわたる、特にポジティブな影響」という意味で、五輪開催を契機として社会に発生するハードとソフトへの多面的な幅広い影響